

平成24年度 病害虫発生予察情報

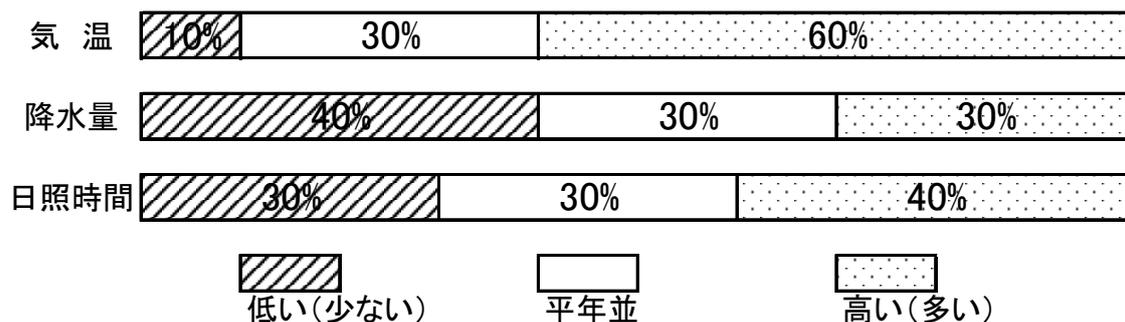
発生予報第7号（9月）

平成24年 8月27日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	少ない
		紋枯病	やや少ない
		白葉枯病	少ない
		ツマグロヨコバイ	平年並
		セジロウンカ	やや少ない
		トビイロウンカ	平年並
		コブノメイガ	やや少ない
		斑点米カメムシ類	やや多い
		ハスモンヨトウ	やや少ない
		果樹	ダイズ
シンクイムシ類	平年並		
ハダニ類	平年並		
ナシ	カメムシ類		やや多い
	うどんこ病		平年並～やや多い
	カキミガ		平年並
野菜	アブラナ科野菜	カメムシ類	やや多い
		アブラムシ類	平年並
		コナガ	やや少ない
		アオムシ	平年並
		ハスモンヨトウ	やや少ない

中国地方1か月予報(8月25日～9月24日・広島地方气象台8月24日発表)
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

少ない

予報の根拠

① 8月24日現在の県内の発生状況は、発病程度のやや高い圃場もあるが、発生圃場率が14%（平年23.6%）、発病穂率は0.1%（平年2.0%）と平年に比べてやや少ない。

② 向こう1か月の気象は本病の発生に抑制的である。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①全般の発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とならない。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地
発生量 少ない

予報の根拠

- ①全般の発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、寄生虫数54.6頭/50株（平年46.0頭）、発生圃場率84.2%（平年76.6%）で発生量は平年並みである。
- ②予察灯への飛来量は平年に比べてやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(5) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、寄生虫数1.2頭/50株（平年14.3頭）、発生圃場率34.2%（平年63.4%）で発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②予察灯への飛来量は平年に比べてやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、寄生虫数4.0頭/50株（平年2.9頭）、発生圃場率13.2%（平年26.4%）で発生量はほぼ平年並みである。
- ②予察灯への飛来量は平年に比べてやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(7) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、寄生虫数0.1頭/50株（平年0.2頭）、被害株率0%（平年2.4%）で発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②予察灯への飛来量は平年に比べてやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(8) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、捕獲頭数3.6頭/20回振り（平年5.8頭）、発生圃場率75.0%（平年70.9%）で発生量は平年並みである。
- ②予察灯でのアカスジカスミカメの誘殺数はやや多い。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方

ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量

やや少ない～少ない

予報の根拠

① 8月24日の巡回調査では、発病葉率は10.0%（平年17.3%）であり、平年と比べてやや少ない。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方

ナシ栽培地帯

発生時期

平年並

発生量

平年並

予報の根拠

① 予察圃場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期、誘殺数とも平年並みである。

② 向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容

発生地方

ナシ栽培地帯

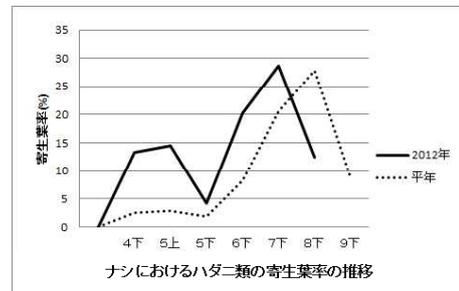
発生量

平年並

予報の根拠

① 巡回調査では、寄生葉率は12.5%/50葉（平年27.9%/50葉）で平年並みである。

② 向こう1か月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。



(4) カメムシ類

予報内容

発生地方

ナシ栽培地帯

発生量

やや多い

予報の根拠

① 予察圃場（出雲市）の8月1日から6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は747頭（平年851.2頭）と平年並み。

② チャバネアオカメムシ集合フェロモントラップでの8月1日から5半旬までの誘殺数は145頭（平年806.6頭）とやや少ない。

③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方

カキ栽培地帯

発生量

平年並～やや多い

予報の根拠

① 8月23日の巡回調査では、発病葉率は15.6%（平年11.0%）であり、平年と比べてやや多い。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方

カキ栽培地帯

発生量

平年並

予報の根拠

① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みである。

② 向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

- ①予察圃場（出雲市）の8月1から6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は747頭（平年851.2頭）と平年並み。種類別ではクサギカメムシが291頭（平年214.8）とやや多い。
- ②チャバネアオカメムシ集合フェロモントラップでの8月1から5半旬までの誘殺数は145頭（平年806.6頭）とやや少ない。
- ③8月下旬の巡回調査ではカメムシの被害果率は1.8%（平年4.8%）とやや少ない。
- ④向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在の黄色水盤への有翅虫の飛来量はやや少ない。
- ②現在の圃場での発生量はやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(2) コナガ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①現在の圃場での発生量は少ない。
- ②向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(3) アオムシ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在の圃場での発生量はやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は、県東西部とも平年比20%ほどで少ない。
- ②現在の本種の発生量はやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>